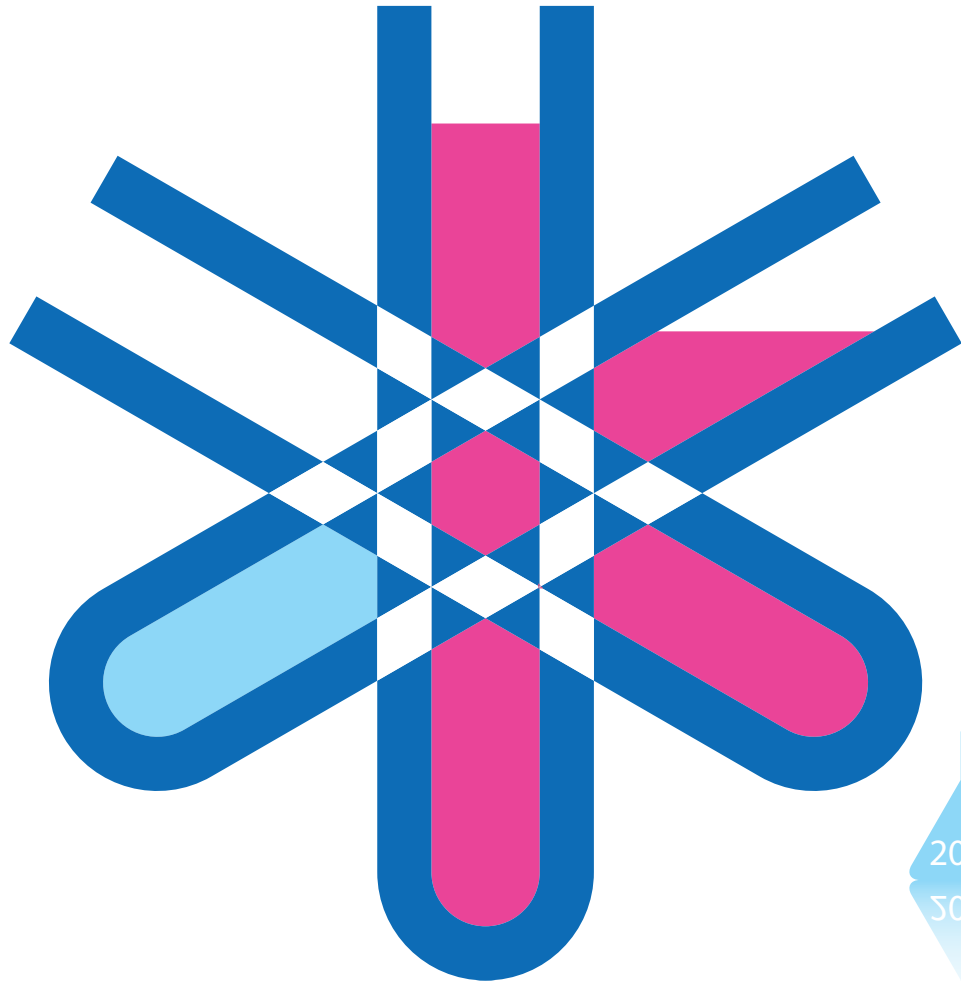


# 横查情報月報



2019  
5010  
12月  
15日

横浜市衛生研究所

# 令和元年12月号 目次

## 【検査結果】

レジオネラ属菌の検査結果(平成31年4月～令和元年11月) .....	1
農産物の残留農薬検査結果(令和元年10月～11月) .....	3

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告 11月 .....	5
-----------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	9
---------------------	---

## レジオネラ属菌の検査結果(平成31年4月～令和元年11月)

---

レジオネラ属菌によって引き起こされるレジオネラ症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の四類感染症に指定されています。

レジオネラ症には肺炎型とポンティアック熱型があります。肺炎型は死亡例も報告されています。一方、ポンティアック熱はインフルエンザに似た熱性疾患で自然治癒するため発見されづらく、報告例が少ない傾向にあります。

レジオネラ属菌は湖沼の水や土の中に生息する常在菌で、土埃などで運ばれて水景設備や冷却塔、浴場施設などの人工的な水環境下でアメーバを介して増殖します。このレジオネラ属菌によって汚染された水のエアロゾルを人が吸い込んだり、汚染水を誤嚥したりすると感染します。感染者から他の人への感染は報告例がありません。

レジオネラ症の発生・拡大を防止するには、原因施設を特定し、レジオネラ属菌を殺菌消毒することが重要です。患者の行動調査で利用施設を聞き取り、施設の水や水回りのふき取り検体を採取して、レジオネラ属菌検査を行って感染源を特定します。

平成31年4月～令和元年11月では、延べ40施設、295検体(水試料134、ふきとり試料161)のレジオネラ属菌検査を行いました。検査は培養検査とLAMP法を用いた遺伝子検査の2種類を行いました。

検査を実施した対象施設数は、自宅17、高齢者福祉施設15、浴場施設6、水浴場施設1、スポーツクラブ1でした。

検査結果はLAMP法で遺伝子が検出されたのは延べ13施設、28検体(水試料16、ふきとり試料12)で、培養で菌が検出されたのは4施設、6検体(水試料1、ふきとり試料5)でした(表)。培養で菌が検出された6検体はすべてLAMP法陽性でした。

培養法で検出された菌を同定した結果、No.2の患者宅浴槽追炊き口ふきとりから検出された菌は *Legionella pneumophila* (*L. pneumophila*) SG1、No.5の患者宅浴槽追炊き口ふきとり、浴槽水から検出された菌は *L. pneumophila* SG5でした。No.3の浴場施設の浴槽喫水面ふきとり及び No.4の患者宅浴槽追炊き口ふきとりから検出された菌は、*Legionella* sp. でした。

しかし、環境から分離された菌株と患者から分離された菌株が一致した事例はなく、感染原因施設と判明したものではありませんでした。

レジオネラ属菌が検出された施設は、保健所の指導により、消毒等の衛生対策を実施しています。

表 レジオネラ属菌が検出された施設と検体

No.	施設種類	LAMP法陽性検体	培養法陽性検体と菌名
1	浴場施設	浴槽水 浴槽壁面ふきとり カラン口ふきとり 水景水	
2	患者宅	浴槽排水口ふきとり 浴槽追い炊き口ふきとり 井戸水 メダカ水槽水	浴槽追い炊き口ふきとり ( <i>L. pneumophila</i> SG1)
3	浴場施設	温泉水 温泉浴槽喫水面ふきとり 白湯浴槽喫水面ふきとり	温泉浴槽喫水面ふきとり ( <i>Legionella</i> sp.) 白湯浴槽喫水面ふきとり ( <i>Legionella</i> sp.)
4	患者宅	浴槽追い炊き口ふきとり	浴槽追い炊き口ふきとり ( <i>Legionella</i> sp.)
5	患者宅	浴槽追い炊き口ふきとり 井戸水 浴槽水	浴槽追い炊き口ふきとり ( <i>L. pneumophila</i> SG 5) 浴槽水 (10cfu/100ml) ( <i>L. pneumophila</i> SG 5)
6	患者宅	加湿器内部ふきとり	
7	高齢者施設	ストレッチャー	
8	浴場施設	浴槽水3か所 カラン口ふきとり	
9	患者宅	浴槽水	
10	浴場施設	浴槽水2か所 カラン水	
11	患者宅	浴槽追い炊き口ふきとり	
12	高齢者施設	気泡発生装置内滞留水	
13	高齢者施設	気泡発生装置内滞留水	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 農産物の残留農薬検査結果(令和元年10月～11月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和元年10月下旬～11月に健康福祉局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが収去した農産物の検査結果を報告します。

## 1 市内産農産物

10月下旬に収去された、だいこんの根(5検体)、玄米(3検体)、にんじん(2検体)の計10検体、11月に収去された、さつまいも(3検体)、キャベツ及びさといも(各2検体)、とうがん、はくさい、ブロッコリー及びみかん(各1検体)の計11検体、合計21検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。いずれの検体からも農薬は検出されませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました

## 2 国内産農産物

11月に収去された、じゃがいも、だいこんの根及びブロッコリー(各1検体)の計3検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。ブロッコリー1検体から1項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(令和元年10月下旬～11月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>市内産農産物</b>						
キャベツ	横浜市	2	0			
玄米	横浜市	3	0			
さつまいも	横浜市	3	0			
さといも	横浜市	2	0			
だいこんの根	横浜市	5	0			
とうがん	横浜市	1	0			
にんじん	横浜市	2	0			
はくさい	横浜市	1	0			
ブロッコリー	横浜市	1	0			
みかん	横浜市	1	0			
<b>国内産農産物</b>						
じゃがいも	北海道	1	0			
だいこんの根	千葉県	1	0			
ブロッコリー	埼玉県	1	1	ボスカリド	0.05	5

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農作物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農作物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
BHC( $\alpha, \beta, \gamma$ 及び $\delta$ の和)	0.005	○	○	—	○	○	イソキサチオン	0.01	—	—	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和)	0.005	○	○	○	○	○	イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	○	○	エンドスルファン( $\alpha$ 及び $\beta$ の和)	0.005	○	○	○	○	○
アルドリノ及びディルドリン	0.005	○	○	—	○	○	エンドリン	0.005	○	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界 (ppm)	農作物					農薬名	検出限界 (ppm)	農作物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	—	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	—	○	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	—	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	—	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○
クロロクスロン	0.01	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	—	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	—
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンブパトリン	0.01	○	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○	フルジオキソニル	0.01	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	—	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	—	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	—	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	ブromoプロピレート	0.01	○	○	○	○	○
チアメトキサム	0.01	○	○	—	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	—	○	—	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	—	○	○	○	—	ボスカリド	0.01	—	○	○	—	○
トリフルラリン	0.01	○	○	—	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	—
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	—	○	○	○	—	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○	○
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	—	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○

A:玄米 B:にんじん、ブロッコリー C:キャベツ、だいこんの根、とうがん、はくさい

D:さつまいも、さといも、じゃがいも E:みかん ○:実施、—:実施せず

DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告 11月

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザが流行しています(A型が多くを占めています)
- 麻しんの報告がありました。
- 風しんの報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈11月期に報告された全数把握疾患〉

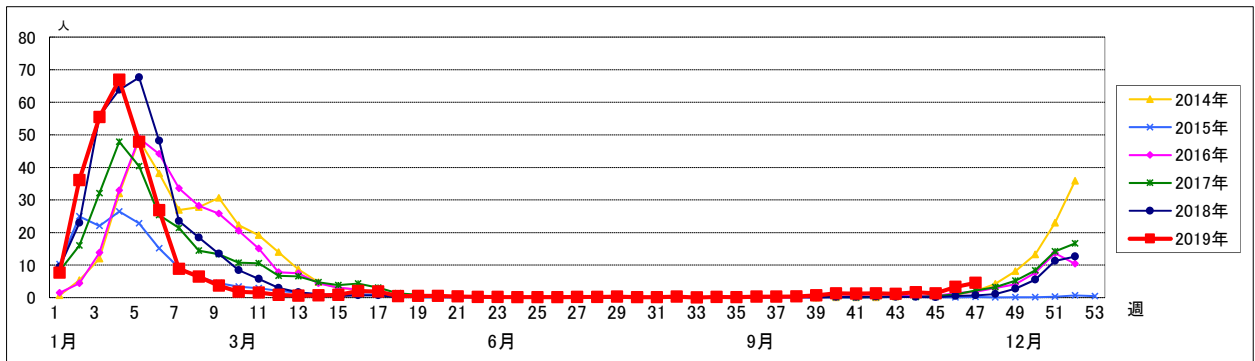
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
E型肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	7件	梅毒	10件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	百日咳	5件
急性脳炎	2件	風しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	麻しん	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が5件(うち1件は無症状病原体保有者)、O121が1件(無症状病原体保有者)ありました。
- 2 E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型6件、ポンティアック熱型1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 8件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 急性脳炎: 幼児の報告が1件(病原体はインフルエンザA)、30歳代の報告が1件(病原体不明)ありました。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が2件、G群の報告が1件ありました。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む): 無症状病原体保有者が1件、その他が1件で、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が1件、同性間または異性間が1件でした。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 30歳代の報告が1件、50歳代の報告が1件、60歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)、70歳代の報告が1件(ワクチン接種あり)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)ありました。
- 9 水痘(入院例に限る): 30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 10 梅毒: 10件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件)がありました。感染地域は国内8件、台湾1件、不明1件で、感染経路は性的接触が9件(異性間7件、同性間1件、同性間または異性間1件)、不明1件でした。性別は男性7件、女性3件でした。
- 11 百日咳: 10歳未満が1件(ワクチン接種あり)、30歳代が1件(ワクチン接種なし)、40歳代が1件(ワクチン接種不明)、50歳代が1件(ワクチン接種不明)、60歳代が1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 12 風しん: 検査診断例1件(60歳代、ワクチン接種不明)が報告されています。
- 13 麻しん: 東南アジアでの感染と推定される検査診断例1件(30歳代、ワクチン接種1回あり)が報告されています。

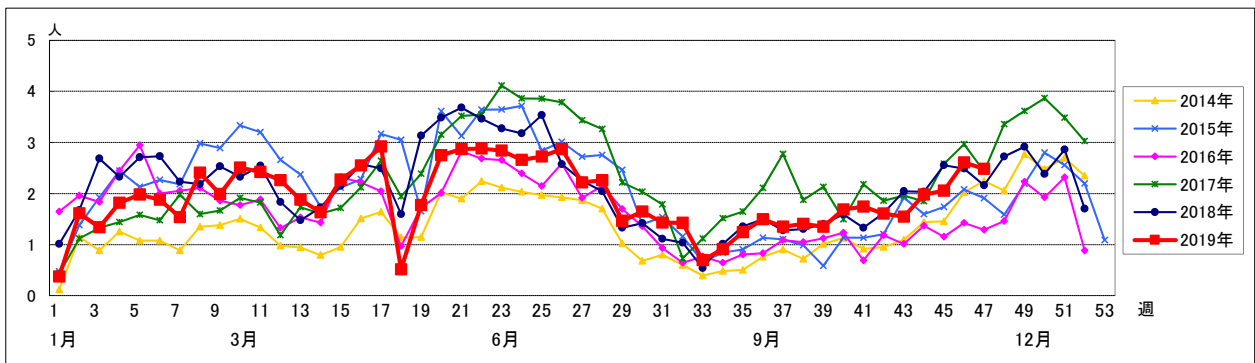
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第44週	10月28日～11月 3日
第45週	11月 4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

1 インフルエンザ: 市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回りました。その後は横ばいで推移していましたが、第46週で3.26、第47週で4.55と増加しています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 夏に報告数が減少していましたが、例年と同様に冬季に入って報告数が増加しています。第46週で2.61、第47週で2.48となっています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:25件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 9件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性: 2件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:11件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.75	0.50	0.33
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.25	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】



◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点39件、内科定点12件、基幹定点12件、眼科定点4件で、定点外医療機関からは6件でした。

12月9日現在、ウイルス分離27株と各種ウイルス遺伝子4件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	脳 症	肺 炎	胃 腸 炎	手 足 口 病	発 疹 症
インフルエンザ AH1pdm型		20	1	1 1			
インフルエンザ AH3 型		3					
コクサッキー A16 型						2	
麻疹							1
ライノ	1						
サポ					1		
合計	1	23	1	1 1	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

11月の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、非結核性抗酸菌1件の依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌6件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌11件、劇症型溶血レンサ球菌2件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からリケッチア3件、クラミジア1件、保健所からレジオネラ1件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(11月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
基幹定点	腸管出血性大腸菌	1	O157:H7 VT1 VT2 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> (1)
医療機関 非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (1)、 <i>Citrobacter freundii</i> (1)
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium lentiflavum</i> (1)
保健所	腸管出血性大腸菌	6	O157:H7 VT1 VT2 (2)、 O157:H7 VT2 (1)、 O157 VT2 (1)、O26:H11 VT1 (1)、 O121 VT2 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	11	<i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (4)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)、 <i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)
	劇症型溶血レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 (2)

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 基幹定点	リケッチア (つつが虫病・紅斑熱群)	全血・痂皮	3	不検出(nested PCR) (3)
	クラミジア	咽頭ぬぐい液	1	不検出(realtime PCR) (1)
保健所	レジオネラ	喀痰	1	不検出 (1)

小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T4 (1)、T6 (2)、T12 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和元年11月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。平成31年3月26日より、新しいホームページへの移行に伴い、URLの変更が行われ、平成31年4月以降のアクセス件数は、新しいホームページでの集計となります。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

令和元年11月の総アクセス数は、482,950件でした。前月に比べ約39%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター<sup>\*1</sup>63.1%、保健情報28.8%、検査情報月報2.2%、薬事1.3%、食品衛生1.2%、生活環境衛生0.7%でした。

<sup>\*1</sup> 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

11月のアクセス順位(表1)

を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「MDMA(通称:エクスタシー)について」、3位は、「大麻(マリファナ)について」でした。2位に、「MDMA(通称:エクスタシー)について」が入ったのは、報道等で話題になったことが原因と考えられます。

表1 令和元年11月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	134,743
2	MDMA(通称:エクスタシー)について	102,752
3	大麻(マリファナ)について	11,948
4	インフルエンザワクチンについて	9,741
5	トキソプラズマ症について	4,488
6	EBウイルスと伝染性単核症について	4,269
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,199
8	衛生研究所トップページ	3,888
9	インフルエンザ流行情報(2019/2020)	3,630
10	水痘(水疱瘡)・带状疱疹について	3,540

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「MDMA(通称:エクスタシー)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/mdma.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

### (3) 電子メールによる問い合わせ

令和元年11月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 令和元年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
インフルエンザワクチンについて	1

## 2 追加・更新記事

令和元年11月に追加・更新した主な記事は、17件でした(表3)。

表3 令和元年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月 1日	インフルエンザワクチンについて	更新
11月 5日	インフルエンザウイルスのウイルス株の命名法について	更新
11月 6日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載
11月 7日	横浜市インフルエンザ流行情報5号	掲載
11月 8日	インフルエンザについて	更新
11月11日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版)	更新
11月12日	全国熱中症患者救急搬送状況(2019年)	更新
11月13日	鳥インフルエンザA(H7N9)について	更新
11月14日	横浜市インフルエンザ流行情報6号	掲載
11月15日	インフルエンザ(H5N1)が、指定感染症になりました！	更新
	インフルエンザ(H5N1)の政令指定が1年延長されました！	更新
11月21日	横浜市インフルエンザ流行情報7号	掲載
11月22日	インフルエンザウイルスのウイルス株の命名法について	更新
11月25日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果	更新
11月28日	横浜市インフルエンザ流行情報8号	掲載
	新しい亜型のA型インフルエンザウイルス(H1N2)について	更新
11月29日	人間への感染が見られたA型インフルエンザウイルスの亜型について	更新

【 感染症・疫学情報課 】